

第3問 答案用紙 <1>

(経済学)

問題 1

問 1

$$w\bar{L} = wL + pc$$

問 2

$$\frac{\bar{L}}{3}$$

問 3

代替効果：

レジャー消費の機会費用として価格にあたる賃金率 w が上昇すると、相対的にレジャーが財より割高になるから、レジャーの消費量は減少する。

所得効果：

賃金率 w が上昇すると、個人の初期保有時間の市場価値が上昇し実質所得(購買力)が増加するから、上級財であるレジャーの消費量は増加する。

全体の効果についての説明：

絶対値で代替効果と所得効果が等しいため、両者相殺

されてレジャーの消費量は不変、したがって労働供給量も不変となる。

問 4

$$w\bar{L} + \pi = wL + pc$$

問 5

x財の需要量：

$$\frac{w\bar{L} + \pi}{3p}$$

労働供給の水準：

$$\frac{\bar{L}}{3} - \frac{2\pi}{3w}$$

問 6

労働投入量：

$$\left(\frac{p}{w}\right)^2$$

生産量：

$$\frac{2p}{w}$$

利潤：

$$\frac{p^2}{w}$$

問 7

$$\frac{w\bar{L}}{3p} + \frac{p}{3w}$$

問 8

$$\sqrt{\frac{5}{\bar{L}}}$$

第3問 答案用紙 <2>
(経済学)

問題 2

問 1

生産要素投入量とのもとでの最大の生産量との関係を示した関数である生産関数において、全ての生産要素投入量を同時に $\lambda (> 1)$ 倍したとき、生産量が λ 倍よりも小さくなるケースを言う。

問 2

$$(0 <) b + c < 1$$

問 3

資本の平均生産力は $aK^{b-1}L^c$ ，資本の限界生産力は $abK^{b-1}L^c$ であるから，両者の差は $aK^{b-1}L^c - abK^{b-1}L^c = aK^{b-1}L^c(1-b) > 0$ となる(\because 問2より $b+c < 1$ のとき $b < 1$)。したがって資本の平均生産力は資本の限界生産力より大きい。これは図形的には，原点を発する上に凸の右上がりの曲線である資本の生産力曲線上の任意の点の接線の傾きより，その点と原点を結んだ直線の傾きの方が大きいことと対応している。

問 4

$$(b+c) \left(\frac{r}{b}\right)^{\frac{b}{b+c}} \left(\frac{w}{c}\right)^{\frac{c}{b+c}} \left(\frac{y}{a}\right)^{\frac{1}{b+c}}$$

問 5

1

問 6

$$a^{\frac{1}{1-b-c}} \left(\frac{b}{r}\right)^{\frac{b}{1-b-c}} \left(\frac{c}{w}\right)^{\frac{c}{1-b-c}} p^{\frac{b+c}{1-b-c}}$$

第4問 答案用紙 <1>
(経済学)

問題 1

- | | | |
|------------|--------|------------|
| (ア) 公開市場操作 | (イ) 負債 | (ウ) シニョリッジ |
| (エ) フィリップス | (オ) 負 | |

問題 2

(1) 正 (誤)

誤っている理由 国内総生産(GDP)に、「海外からの所得(純)」を足して固定資本減耗を引いたものが、「統計上の不突合」を無視すれば、市場価格表示の国民所得に相当するから。

(2) 正 (誤)

誤っている理由 消費者物価指数は、基準年の数量をウェイトとして計算されるラスパイレス指数であるから。

問題 3

問 1

$$C_1 = 200$$

$$C_2 = 242$$

問 2

① 0.74

② 0.6

問 3

$$\frac{Y}{L} = \frac{10}{3} s$$

問 4

$$G = 90$$

第4問 答案用紙 <2>
(経済学)

問題 4	問 1	0.48	問 2	0.42 %
	問 3	3.33 %		
問題 5	問 1	12.1 %	問 2	10.99 %
	問 3	10 %		